

ODAの効果の持続性（自立発展性）

ODAの効果の持続性（自立発展性）

- ・ ODA評価は、DACが定めた評価5原則で示された観点に則って実施されているが、この5原則の中では「自立発展性(効果の持続性)」がODAの特性に応じた評価の観点。ODAの実施による「効果の持続性(自立発展性)」の確保は、効果・インパクトの発現の前提条件であり、日本のODAの理念である「自助努力支援」に通ずるもので、評価に当たって重要な観点
- ・ 成果重視のODAを推進するためには、効果の発現のみではなく、発現した効果が持続することにより上位目標の達成を図ることが重要

DAC/ODA評価5原則

ODAの評価に当たって必要とされる観点として1991年OECDのDAC上級会合で採択されたもの

- ・ 妥当性(Relevance)
- ・ 有効性/目標達成度(Effectiveness)
- ・ 効率性(Efficiency)
- ・ 効果(Impact)
- ・ **自立発展性(Sustainability)**： プロジェクトの結果として生じた正の効果が、プロジェクト終了後もどれだけ持続しているか。被援助国側の実施機関の運営体制や被援助国の政府の支援状況を検証する。

旧来のODA大綱、新ODA大綱のいずれにおいても、日本のODAにおいて、開発途上国の「自助努力支援」が基本